

2016年 アメリカ学会第50回年次大会 プログラム

(会場が変更になりましたので、アメリカ学会 HP 上で
あらたに参加登録をお願いします。)

1. 開催日 2016年6月4日(土)、6月5日(日)

2. 会場 東京女子大学

〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1

交通アクセス：<http://office.twcu.ac.jp/univ/access/>

キャンパスマップ：<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/campus/map/>

会場校連絡先 小檜山 ルイ (E-mail: rui@lab.twcu.ac.jp)

3. 受付 9号館ロビー

4. プログラム (報告要旨は大会会場で配布する【大会要項・報告要旨】に掲載します。)

第1日 6月4日(土)

午前の部 自由論題 9:30~12:00

【自由論題A 人種・エスニシティー】 9号館 9104

司会：麻生 享志 (早稲田大学) 討論：中地 幸 (都留文科大学)

Eriko YAMAMOTO 山本 恵里子 (Aichi Mizuho College 愛知みずほ大学) “More than the 'Race' Issue: The 1936 Berlin Olympics and Japanese Americans”

Sanae NAKATANI 中谷 早苗 (Kansai Gaidai University 関西外国語大学) “Emotional, Warm, and Humane: Minoru Yamasaki’s Architecture and Strategic Formation of His Professional Identity”

Edward K. CHAN (Waseda University 早稲田大学) “Gloria Anzaldúa’s Model of Identity and Utopian Desire”

Yasuko KASE 加瀬 保子 (University of the Ryukyus 琉球大学) “The Perfect Guest: Trauma and the Implicated Subject in *A Gesture Life* by Chang-Rae Lee”

【自由論題B 文学と映画における帝国主義・新自由主義・民主主義】 9号館 9105

司会：山口 和彦 (東京学芸大学) 討論：渡邊 真理子 (西九州大学)

柳沢 秀郎 (名城大学) 「フレデリック・ヘンリーの連合——帝国主義的日米対立と『武器よさらば』」

青木 耕平 (一橋大学・院) 「コーマック・マッカーシー『国境三部作』におけるメキシコ——北米自由貿易協定、麻薬カルテル、そして新自由主義」

【自由論題C 移民政策・保守主義・米欧関係】 9号館 9201

司会：上村 直樹 (南山大学) 討論：倉科 一希 (広島市立大学)

鈴木 俊弘 (一橋大学・院) 「米国における人種論の社会性——移民委員会報告書第5巻『人種民族辞典』(1911)における「アロフィリアン・ホワイト」の概念をめぐる」

森山 貴仁 (Florida State University フロリダ州立大学・院) 「保守を売り込む——アメリカにおける

政治コンサルタントとメディア」

志田 淳二郎（中央大学・院）「ジョージ・H・W・ブッシュ政権の再検討——冷戦終結期の米欧関係の文脈で」

【自由論題 D 冷戦・対抗文化・公民権運動】 9号館 9202

司会：大森 一輝（北海学園大学） 討論：兼子 歩（明治大学）

青砥 吉隆（国際基督教大学・研究員）「アポロ 11 号が月面に残した銘板 “We came in peace for all mankind.” の訳出 について」

藤重 仁子（森ノ宮医療大学）「アメリカにおける補完代替医療の「復興」と移民——鍼治療を事例として」

西崎 緑（福岡教育大学）「公民権運動における YWCA の役割——YWCA of the USA Papers に残された記録を通して」

【自由論題 E 初期アメリカ・国際関係・文化外交】 9号館 9203

司会：小山 久美子（長崎大学） 討論：土屋 由香（愛媛大）

笠井 俊和（静岡県立大学・講）「英領アメリカ植民地における航海法違反の実態——ボストン船の事例を中心に」

奥田 俊介（京都大学・院）「リンンドン・ジョンソン政権の対アフリカ広報外交と国務省教育・文化局——1964～69 年」

William CHOU（University of Tokyo 東京大学・研究員）“Constructing the American Japanese Car: Technology, Consumer Markets, and Shocks 1957-1982”

【自由論題 F 家族・ジェンダー・社交】 9号館 9204

司会：松原 宏之（立教大） 討論：佐々木 真理（実践女子大学）

関口 洋平（University of Hawaii ハワイ大学・院）「イデオロギーとしてのポスト核家族と「イクメン」の誕生——20 世紀後半アメリカにおける父親の表象について」

大塩 真夕美（白百合女子大学）「Mrs. Astor と Marjorie Merriweather Post——19 世紀と 20 世紀の社交界をそこに君臨した女性から比較する」

福田 敬子（青山学院大学）「アメリカ人芸術家のロンドン・クラブライフ——ヘンリー・ジェイムズを中心に」

昼食休憩 12：00～12：50

理事会・評議員会 12：05～12：50 9号館 9103

午後の部

アメリカ学会設立 50 周年記念シンポジウム

「アメリカ学会半世紀の省察と展望」 13：00～18：00 23号館 23101

司会 第二部まで 小檜山 ルイ（東京女子大学）
第三部から 生井 英考（立教大学）

開会の辞・趣旨説明

松本 悠子（アメリカ学会会長 / 中央大学）

第1部 基調報告

報告者 中嶋 啓雄 (大阪大学) 「歴史的視座から見たアメリカ学会」
渡辺 靖 (慶應義塾大学) 「発足から 50 年——アメリカ学会の過去・現在・未来に関する
若干の問題提起」

第2部 ラウンドテーブル I 「これまでの半世紀から学びとる」

発言者 佐藤 宏子 (アメリカ学会元会長 / 東京女子大学・名)
長田 豊臣 (アメリカ学会元会長 / 学校法人立命館理事長)
油井 大三郎 (アメリカ学会元会長 / 東京大学・一橋大学・名)
有賀 夏紀 (アメリカ学会元会長 / 埼玉大学・名)
古矢 旬 (アメリカ学会元会長 / 北海商科大学)
中嶋 啓雄 (大阪大学)
渡辺 靖 (慶應義塾大学)

第3部 ラウンドテーブル II “Navigating American Studies in an Age of ‘Globalization’”

Speakers

Hiroshi OKAYAMA 岡山 裕 (Keio University 慶應義塾大学)
Michio ARIMITSU 有光 道生 (Keio University 慶應義塾大学)
Hiroshi KITAMURA 北村 洋 (College of William and Mary)
Masumi IZUMI 和泉 真澄 (Doshisha University 同志社大学)
Roger H. BROWN (Saitama University 埼玉大学)
Claudia Franziska BRÜHWILER (University of St. Gallen)

第4部 Concluding Remarks

Hyung Song LEE (President, ASAK / Hankuk University of Foreign Studies)
Yuko MATSUMOTO 松本 悠子 (President, JAAS / Chuo University アメリカ学会会長 / 中
央大学)

茶話会 18:30~19:45 11号館 2F カフェテリア

.....

第2日 6月5日(日)

部会・Workshop 午前の部 9:00~11:30

【部会 A 格差社会アメリカを再考する——経済・歴史研究者からの問い】 9号館 9104

司会 須藤 功 (明治大学)
報告 大橋 陽 (金城学院大学) 「低所得層の信用アクセスとフリンジバンキング」
佐藤 千登勢 (筑波大学) 「セーフティネットは機能しているのか?——福祉改革後のアメ
リカ」

中島 醸 (千葉商科大学) 「模索する労働運動——「ビジネス・ユニオニズム」から「社会運動ユニオニズム」へ」
討論 本田 浩邦 (獨協大学)

【部会 B 拡張主義と環境】 9号館 9103

司会 松永 京子 (神戸市外国語大学)
報告 鎌田 遵 (亜細亜大学) 「アメリカ先住民と核開発」
加藤 恵理 (成城大学・講) 「ハワイにおける外来種をめぐる議論」
山城 新 (琉球大学) 「アメリカ合衆国探検遠征隊と拡張主義」
討論 荒 このみ (東京外国語大学・名)

【Workshop A Framing the “American Century”: Migrations across a Globalizing World I】 9号館 9201

司会 Yoneyuki SUGITA 杉田 米行 (JAAS / Osaka University 大阪大学)
報告 Krystyn R. MOON (ASA / University of Mary Washington) “The Making of the Modern Visa: American Immigration Policies, Legal Entry, and the Body Politic, 1880s-1940s”
Madeline Y. HSU (OAH / University of Texas at Austin) “Discrimination and Selection: A Brief Interpretation of U.S. Immigration Restriction”
Shiori Nomura ICHIMASA 一政 (野村) 史織 (JAAS / Chuo University 中央大学) “Discourses of Women on Birth Control and Childcare: Japanese Immigrant Women and the Japanese Immigrant Media in the Early 20th Century U.S.A.”
討論 Hyun-Song LEE (ASAK / Hankuk University of Foreign Studies)

昼食休憩 11 : 30～13 : 10

分科会 11 : 40～12 : 55 (内容については下記「分科会のご案内」をご参照ください。)

新理事会 12 : 30～13 : 00 9号館 9103

総会 13 : 10～13 : 40 9号館 9103

清水博賞・斎藤眞賞授賞式 13 : 50～14 : 00 9号館 9103

部会・Workshop 午後の部 14 : 10～16 : 40

【部会 C オバマ政権の功績の評価】 9号館 9103

司会 前嶋 和弘 (上智大学)
報告 山岸 敬和 (南山大学) 「オバマケアの歴史的意義」
佐藤 丙午 (拓殖大学) 「米国の外交・安全保障戦略の継続性と断続性——リバランスと戦略的抑制がアジア太平洋に及ぼす影響を中心に」
渡辺 将人 (北海道大学) 「オバマの時代と民主党——分極化の中で」
討論 西山 隆行 (成蹊大学)

【部会 D 「ポスト・レイシャル」アメリカにおける「人種」】 9号館 9104

司会 大類 久恵 (津田塾大学)

報告 村山 瑞穂 (愛知県立大学) 「カラーブラインド時代にいかに人種を語るのか——アジア系アメリカ文学の場合」

川島 正樹 (南山大学) 「「ポスト・レイシャル」アメリカにおけるカラー・ライン再定義圧力の分析と都市部における問題解決努力の展望」

余田 真也 (和光大学) 「ポストインディアンの真正性——現代文学における先住民アイデンティティの考察」

討論 竹沢 泰子 (京都大学)

【部会 E スーパーウーマンの表象】 9号館 9105

司会 杉山 直子 (日本女子大学)

報告 山口 ヨシ子 (神奈川大学) 「異性装の冒険者——キャピトラー・ブラックとその姉妹たち」

大串 尚代 (慶應義塾大学) 「ワンダー・ウーマンとは誰か?——スーパーヒロインと 20 世紀アメリカ」

小澤 英実 (東京学芸大学) 「ファイナル・ガールズから怒れる女たちへ——映画のなかのスーパーヒロイン」

討論 赤尾 千波 (富山大学)

【Workshop B Framing the “American Century”: Migrations across a Globalizing World II】 9

号館 9201

司会 Yutaka SASAKI 佐々木 豊 (JAAS / Kyoto University of Foreign Studies 京都外国語大学)

報告 Moustafa M. BAYOUMI (ASA / Brooklyn College, City University of New York) “‘I was treated like a UPS package’: Migration in *Guantánamo Diary*, the American Slave Narrative, and the War on Terror”

Neil FOLEY (OAH / Southern Methodist University) “Mexican Immigrants in the U.S. Army and U.S.-Mexico Diplomacy”

Yutaka NAKAMURA 中村 寛 (JAAS / Tama Art University 多摩美術大学) “Migration and the Location of Violence: Reflections on the Narratives of African-American Muslim”

討論 Jeongsuk JOO (ASAK / Jungwon University)

5. 注意事項

1) 学会ホームページにて 5 月 20 日までに大会参加登録をお願いいたします。熊本県立大学での大会のために参加登録をされた方も、再度登録をお願いいたします。

2) 茶話会参加ご希望の方も大会参加登録ページにてお申し込みください。参加費 (3,000 円) は大会受付 (9 号館ロビー) にてお支払いください。

3) 年会費の当日払いは受け付けられませんのでご了承ください。

4) 非会員の大会参加費は 1,000 円です。会場受付にてお支払いください。

5) 昼食: 学内のレストランは大会初日 (6 月 4 日)、2 日目 (6 月 5 日) とともに営業しておりません。4 日、5 日ともに、大学周辺の飲食店を利用されるか、コンビニやスーパーマーケットで各自弁当をご購入ください。

6) 第 1 日 (6 月 4 日) の理事会・評議員会、第 2 日 (6 月 5 日) の新理事会出席者のための弁当注文は中止することになりました。各自で昼食をご用意ください。

7) 会場までの交通アクセスについては、東京女子大学の「交通アクセス」ページをご覧ください。宿泊の予約も各自でお願いいたします。

8) パワーポイント利用：いずれの会場にもプロジェクターとスクリーンを用意いたしますが、コンピューターはありません。報告者でパワーポイントを利用される方は、ノートパソコンをご持参いただき、各自で動作確認を行ってください。プロジェクターとの接続コネクターの形状は「D-sub 15ピン」（一般的に使用されている形状）です。このタイプに対応していないパソコンをご利用の方は、コネクタもご持参ください。なお、マッキントッシュのコンピューターとは相性がよくないため、マッキントッシュを使用される方は PPT ファイルをコピーした iPad あるいは iPhone をご持参下さい（接続コネクタもご持参下さい）。iPad あるいは iPhone をご持参いただけない場合は、同じ報告会場でウィンドウズを使用する報告者にパソコンを利用させてもらうよう依頼していただくか、あるいは、紙の資料をご用意下さい。

6. 会場案内

受付	9号館ロビー
書店等出展	9号館ロビー奥
会員用控室	9号館 9102
本部スタッフ・役員控室	9号館 9101
外国人ゲスト控室	23号館 23100

6月4日（土）

午前 自由論題	9号館 9104、9105、9201～9204
昼食時 理事会・評議員会	9号館 9103
午後 アメリカ学会設立50周年記念シンポジウム	23号館 23101
茶話会	11号館 2F カフェテリア

6月5日（日）

午前 部会およびワークショップ	9号館 9103、9104、9201
昼食時 分科会	9号館 9104、9105、9202～9205、23号館 23200、23300
午後 新理事会	9号館 9103
総会	9号館 9103
授賞式	9号館 9103
部会およびワークショップ	9号館 9103、9104、9105、9201

第50回年次大会 分科会のご案内 6月5日（日）11：40～12：55

* 会場は9号館 9104、9105、9202～9205、23号館 23200、23300です。部屋割りは事前参加登録者数に基づき決定します。

1. 「アメリカ政治」 責任者：西山 隆行（成蹊大学）taka1765@gmail.com

報告：清原 聖子（明治大学）「全米に広がるオンライン有権者登録制度——普及要因と意義」

オンライン有権者登録制度とは、従来ペーパーで行ってきた有権者登録をインターネット上で可能にする仕組みで、州法で州ごとにシステムを導入している。2002年にアリゾナ州で初めてオンライン有権者登録制度が導入されて以来、2016年2月現在30州が導入済みである。同制度が近年急速に全米に普及している背景には、費用効果が大きいこと、有権者の利便性向上、正確な有権者登録が可能と言ったメリットが考えられる。オバマ大統領が設置した選挙管理に関する大統領委員会による法的拘束力のない推薦も後押ししている。本報告では、1993年モーターボーター法との関連性に触れ、多くの州でオンライン有権者登録制度が導入されるようになってきた要因を明らかにして、インターネットを使った投票環境の整備という観点からその意義についても検討する。

2. 「アメリカ国際関係史研究」 責任者：藤本 博（南山大学）hiroshif@nanzan-u.ac.jp

報告：上 英明（神奈川大学）「外交と人の移動の『衝突』——冷戦期における米・キューバ国交正常化交渉とその限界をめぐって」

オバマ大統領が隣国キューバとの対話の開始を発表して以来、米国とキューバの関係が新たに注目を集めていることもあり、本年は、米国・キューバ関係史を専門とされる上 英明氏に報告をお願いする。昨年には1961年以来途切れていた国交が回復し、「冷戦の遺産」が清算されつつあると言われる。本報告は、この「冷戦の遺産」とはいったい何を意味したのかを問題関心に据えながら、両国政府が既に1970年代において国交正常化を模索していたことに着目し、米国・キューバの外交資料やインタビューなどを用い、対話が難航した原因を探求する。本報告は、対話の背景として、カーター政権の外交戦略、国務省とホワイトハウスの関係、カストロ政権の思惑などを扱い、その際、アフリカや中米カリブ地域をめぐる両国の地政学的・イデオロギー的対立にとどまらず、二国間関係において極めて重要な役割を担ったフロリダ州マイアミのキューバ人コミュニティの動きに焦点をあてる。

本報告では、国際関係史の研究動向における本研究の意義とともに、カーター大統領図書館やキューバ外務省史料館など、冷戦研究に欠かせない史料調査の状況についても言及いただく予定である。

3. 「日米関係」 責任者：末次 俊之（専修大学）suetoshi007@gmail.com

報告：浅野 一弘（札幌大学）「国務長官の対日観——ライスとヒラリーの回顧録をもとに」

かつて、駐日米国大使をつとめたマイク・マンズフィールドは、「日米関係は世界に類例をみない、もっとも重要な二国間関係である」と述べたことがある。しかしながら、このことばは、いまなおあてはまるのであろうか。

そこで、本報告では、米国務長官をつとめたコンドリーザ・ライスとヒラリー・クリントンの回顧録に着目し、2人の対日観を紹介したいと考えている。この2人をとりあげるのは、『ヒラリーとライス——アメリカを動かす女たちの素顔』（岸本裕紀子著）や『ヒラリー vs. ライス——次期アメリカ合衆国大統領をめぐる闘い』（ディック・モリス＝アイリーン・マクガン著）などの著作にみられるように、両者が比較されることが多いからであり、直近の国務長官をつとめていたからである。

また、本報告では、日本側のメディアの報道についても留意したい。というのは、日本側で伝えられているほど、この2人が日米関係を重視していなかった様子が、回顧録からはうかがいしれるからである。

4. 「経済・経済史」 責任者：名和 洋人（名城大学）nawa@meijo-u.ac.jp

報告：安岡 邦浩（京都大学・院）「大企業規制とニューディール」

本報告は政府による大企業規制のあり方に対し、ニューディール政策が与えた影響について考察するものである。ニューディール政策は政治・経済・社会構造改革を目指した政策の総称であるが、初期の不況対策に対する対応（AAA・NIRA）などに主に関心が向けられてきた。このため後期に

目標とされた活発な競争を通じた経済活性化とその手段たる反トラスト法の運用については軽視される傾向にある。しかし、後期ニューディール政策が大企業規制に与えた影響は非常に大きいものである。実際に有数の大企業が相次いで特許と技術（AT&T:トランジスタ、IBM:パンチカード、Kodak:カラー写真の現像など）を開放させられているからである。上記の様な認識の下、本報告では停滞していたとされる反トラスト法の復活劇とその契機となったニューディール政策を競争政策史の観点から考察する。

5. 「アジア系アメリカ研究」 責任者：野崎 京子（京都産業大学） nozaki@cc.kyoto-su.ac.jp

報告：坂口 満宏（京都女子大学）「北米に渡った熊本県からの移民と郷里とのつながり」

熊本県からの海外移民は、ハワイ官約移民に始まり、移民会社の時代になると メキシコやペルー、アメリカ本土へと広がり、1924年にアメリカ合衆国への移民が禁止されるとブラジルへと推移していった。そして1930年頃になると移民数において広島県を上回り、沖縄と並んで全国一位となっていた——よく知られていることである。では、こうした移民は熊本のどこの村からいつ頃、どのようにして海外に渡り、移民先でどのような生活を営んでいたのだろうか——。残念なことに熊本県からの海外移民の歴史については全くといっていいほど未整理であり、明らかにされていないのが現状である。本報告ではこうした現状を打破するという目的のもと、1920～30年代の熊本海外協会の『会報』を基礎資料とし、北米に組織された海外協会支部と郷里との結びつき、農地改革と在米の不在地主問題等を糸口に、熊本県からの海外移民を考える糸口を提案したいと思う。

6. 「アメリカ女性史・ジェンダー研究」 責任者：山内 恵（清泉女子大学・講） ymucm@sannet.ne.jp

報告：鈴木 周太郎（鶴見大学）「アメリカ建国期における英仏関係と女性の権利論」

本報告では1790年代アメリカにおいて、イギリスやフランスとの外交問題が市民にとっての関心事となり、さらにそれが「女性の権利」についての議論にも大きな影響をおよぼしたことを検討する。ジェイ条約、海賊問題、フランス王妃の処刑といった事柄が、アメリカのジェンダー秩序を動揺させていった過程を検討する。特にマシュー・ケアリーによる『アルジェについての考察』やスザンナ・ローソンによる劇『アルジェの奴隷』を考察し、海賊問題がその背後にいるとされたイギリスへのアメリカ人の敵対感情を増幅させ、それがこの時代に頻りに議論されるようになった「女性の権利」論と結びついていった経緯を明らかにする。フィラデルフィアの出版人ケアリーがローソンやメアリ・ウルストンクラフトの著作の出版を通して親仏反英の感情を煽りつつ、その結果「女性の権利」についての市民の共感の喚起に繋がったことを論ずる。

7. 「アメリカ先住民研究」 責任者：佐藤 円（大妻女子大学） mdsato@otsuma.ac.jp

報告：大野 あずさ（大阪経済大学）「歴史学者として現代の都市アメリカ先住民コミュニティを研究するということ」

報告者は、2014年8月から1年間、在外研究でコロラド大学デンバー校歴史学部にて客員教授として籍を置き、現地の先住民コミュニティでインタビューならびにフィールドワークを中心とする調査研究を実施した。また、その間研究対象とするコミュニティで行われていた文化行事や抗議運動などに参加し、デンバーの先住民コミュニティでその当時起きていた出来事を日常的に体験する機会を得た。本報告では、特にこの在外研究中に取り組み始めた新たな研究テーマ（先住民児童の養子縁組、アルコール依存症とホームレス問題）について紹介したい。また、在外研究中の経験を踏まえ、これまで第二次大戦以降のアメリカ先住民現代史を研究してきた報告者が、「過去」ではなく、「現在」の都市先住民が直面する問題をテーマとした研究に取り組むようになった経緯を説明したうえで、その問題点についても検討を加えてみたい。

8. 「初期アメリカ」 責任者：石川 敬史（東京理科大学） takafumi@rs.kagu.tus.ac.jp

報告：朝立 康太郎（西南学院大学）「南部奴隷主層による「政治経済学」批判」

本報告では、主として1830年代以降に南部奴隷主層が唱えた自身のセクションに関する様々な擁護論について、これを同時期に出現しつつあった「自由な社会」とその「政治経済学 (Political Economy)」に対する批判という視点から検討することで、やがて内戦に帰結する南部奴隷主層のイデオロギーの歴史的意味を探ってみたい。

周知のように、19世紀前半のアメリカ合衆国は、領土の急速な拡張と「市場革命」の概念で表象される経済発展に伴い、セクションの形成を経験した時代であった。この渦中で注目すべきは、各セクションにおいて「自由な社会」が生み出した諸原理への対応が模索されたことである。従来、自由貿易の推進や奴隷制プランテーションへの集中的な資本投下などを特徴として指摘されてきた奴隷主寡頭支配は、「自由な社会」をどのように吟味し、また対応しようとしたのであろうか。本報告ではその歴史性に注目しつつ考えてみたい。

9. 「アメリカ社会と人種」 責任者：藤永 康政 (山口大学) yfujinag@gmail.com

報告：戸田山 祐 (神奈川大学・講) 「メキシコ人非合法移民の包摂と排除——1950年代前半のテキサスにおける送還と合法化」

1950年代初頭から、メキシコからの非合法移民が合衆国内で問題視されるようになり、1954年には大規模な摘発と送還が実施された。本報告では、非合法移民の雇用がとりわけ大規模におこなわれていたテキサスにおいて、摘発と送還が同州の地域社会にいかなる影響をもたらしたのかを検討する。ここで注目するのは、非合法移民の送還の猶予および滞在・就労資格の正規化をめぐる、「アングロ」の雇用主、メキシコ系アメリカ人およびメキシコ人非合法移民労働者のあいだのせめぎ合いと、テキサス州政府や州内の民間団体が非合法移民とその家族を対象に実施した援助策である。これらの分析を通じて、同時期のテキサスにおける「人種」・エスニシティ・シティズンシップの境界について考察するとともに、非合法移民の包摂・合法化と排除・送還という、今日の合衆国でも関心を集めている問題について、歴史的な文脈をふまえて再考したい。

(最終更新日：2016.5.10)